

次世代協調ITSに関する共同研究

(研究期間：平成29年度～平成31年度)



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 吉田 秀範 主任研究官 小木曾 俊夫 研究官 今村 知人 交流研究員 榎 真

(キーワード) 協調ITS、賢く使う、自動運転

3. 生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. はじめに

協調ITSとは車対車、車対インフラ及びインフラ対インフラの通信を統合し、通信方式やデータ形式などの整合を図ることにより、車、路側機、センター、個人端末などが相互に情報を交換し、それを安全運転支援、道路・交通管理、物流管理、環境、情報収集・提供、自動運転などの多様なアプリケーションで供与するシステムのことである。

2. 官民共同研究

効果的で実現性の高い協調ITSサービスを実現するためには、自動車メーカ、電機メーカ、道路管理者等の関係する者が連携して検討することが重要であり、今年度より平成31年度まで「次世代の協調ITSの実用化に向けた技術開発に関する共同研究」を実施し、官民による検討を進めることとした。

平成29年9月～11月の間、共同研究者の公募を行い、平成30年1月より、国総研と民間企業等29者(32団体)にて、共同研究を開始したところである。

【共同研究参加民間企業等】

自動車メーカ	4者(4団体)
電機メーカ	13者(16団体)
地図会社	1者(1団体)
関係財団法人	5者(5団体)
高速道路会社	6者(6団体)

3. 研究項目

本共同研究においては、多くの協調ITSアプリケーションのうち、平成32年までに高速道路での自動運転等を実現する政府目標の実現に向けて3項目の研究項目を設定しており、共同研究者とワーキング形

式で検討を進めている。

1) 合流部支援サービスに関する検討

合流部において本線の混雑状況を把握し、合流しようとするドライバー・車両に情報提供をすることで、円滑な合流を支援するサービスについて検討を行う。

2) 先読み情報提供サービスに関する検討

車両単独では検知できない前方の事故車両等の情報(先読み情報)をドライバー・車両に提供する事で、事前の車線変更等を支援するサービスについて検討を行う。

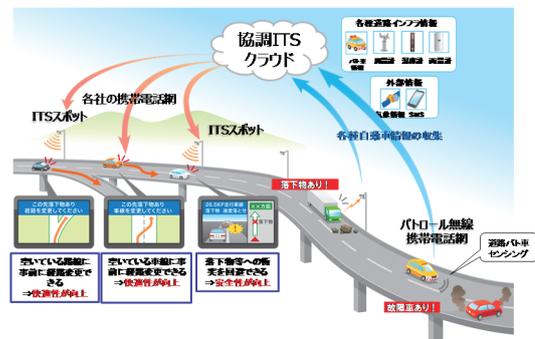


図 先読み情報提供サービスの例

3) 車両情報を活用した道路管理高度化に関する検討

個々の車両のブレーキ操作やウインカー操作等の情報を活用して道路上の落下物や交通事故等の異状を早期に把握し、迅速な応急対応やドライバーへの情報提供に繋げるなどの道路管理高度化の方策について検討を行う。

4. おわりに

本共同研究で検討を行うサービスについて、国総研試験走路での走行実験を想定しており、実現に向けた技術的検討を進めていく。